

ピンチの研修医

～聖路加チーフレジデントがピンチの研修医を救出します～

聖路加国際病院 血液内科部長

編集 ● 岡田 定

聖路加国際病院 内科チーフレジデント

執筆 ● 松尾 貴公 岡本 武士
北田 彩子 矢崎 秀

第13回

SpO₂ 低下

～呼吸不全と酸素投与の基本。
リザーバーマスクは低流量?!～

松尾 貴公

エピソード

ピンチの研修医

一ある土曜日の日中。

研修医：今日は日直、どうぞよろしくお願いします。

チーフレジ：おー。今日は入院も病棟もたくさん勉強できるといいな。これまで教えたことは頭に入っているかな？

研修医：えーと。何となくは覚えています。

チーフレジ：何となくじゃなくてさ。しっかり復習してくれよ。

研修医：はい、わかりました！

『ブルルル……』

研修医：はい。

チーフレジ：肺結核後遺症でⅡ型呼吸不全のある74歳女性ですが、誤嚥性肺炎で入院して3日目です。SpO₂が

今回の肝

1. SpO₂ 低下で呼ばれたら、診断と治療は同時並行で行う
2. 低流量と高流量の酸素投与のデバイスを区別できる
3. 呼吸不全の分類は“傘売り”で覚える

68%の低下でレポートです。

研修医：えー!!!! SpO₂ 68%ですか?! ○ × □ △ ※ ……。

チーフレジ：落ち着いて！何を言ってるんだ。

研修医：あの、あの、SpO₂ 低下です！

チーフレジ：で？どうするの？

研修医：とりあえず酸素ですか？すぐ患者さんのところに行ってきます！

チーフレジ：わかった。すぐ追いかけるよ！

一患者さんのベッドサイドにて。

研修医：おい！何をもたついているんだ！

チーフレジ：は、あの一、ちょっとどうしようかと思って。

研修医：意味がわからん。何をためらっているんだ！

チーフレジ：酸素を投与していかどうか……。

研修医：おい！SpO₂ 68%だぞ！すぐにジャクソン持ってきて！

研修医：は、はい！

チーフレジ：もしかしてCO₂ナルコーシスを心配したの？

研修医：そのとおりです。

チーフレジ：そうかと思った。とりあえず痰がごろごろ言っているから口腔内をすぐに吸引して！

研修医：え、吸引ですか?! やったことないです！

チーフレジ：私やります！

研修医：……。



一その後、患者さんのSpO₂は速やかに93%まで回復した。

研修医：ふう……。

チーフレジ：大丈夫？よく研修医が経験する状況だ。

研修医：はい。酸素投与するのがなにか怖くて。

チーフレジ：そうだな。CO₂ナルコーシス vs 低酸素血症は重要なテーマだ。高二酸化炭素血症はバグ換気で改善できる。一方、低酸素血症は臓器（とくに脳）に不可逆的な障害を与える。そのため、CO₂ナルコーシスがある患者においても、適量の酸素投与を躊躇してはいけないんだ。

研修医：そうなんですね……。

チーフレジ：今回、もたもたして何を考えていたのかな？

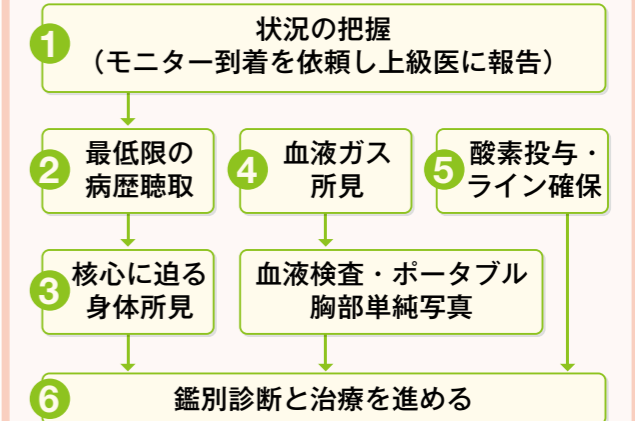
研修医：えーっと、テンパって、頭の中が真っ白でした。

チーフレジ：他のコールと違ってSpO₂低下の難しいところは、どれだけ迅速に酸素投与の治療と病歴聴取と身体診察を同時に進めていけるかということなんだ。1分1秒を争う場面も少なくないから、患者さんの予後は、ファーストタッチの君の動きにかかっているといっても過言ではないね。

研修医：はい。

チーフレジ：これを見てごらん。

SpO₂ 低下の call を受けたらすべきこと



→SpO₂ 低下の call を受けたら、話を聴きながらとにかくダッシュして実際にベッドサイドに行く!
「喀痰の吸引をお願いします!」